ロータリーの神髄 ― 職業奉仕を語る(Ⅶ)

職業と奉仕

パスト・ガバナー
近藤　雅臣
(千里RC)

1. 職業奉仕の真ん中に「と」を入れる

ロータリーの職業奉仕についてはこれまで各PGが月信に述べられ、また、地区職業奉仕委員会の解説書「職業奉仕の心」や畑田委員長の論説により充分理解されていることと思います。私は下記の2例の体験のもとに私なりの素朴な思いを述べさせて頂きたいと思います。題を職業奉仕ではなく職業と奉仕に分けたのはそれぞれの意味を考え、両者を繋いだ場合にどうなるかと思ったからであります。すなわち、職業というのは当然報酬が付いてくるものであり、その報酬に正当に見合うものを提供すべきものであって、そのことは何ら奉仕ではありません。奉仕は見返りを求めない行為でありますから、職業奉仕として2語を繋いだときどう対処したらよいか迷ったものであります。

2. 研究者が吊し上げに?!

私は環境科学の研究教育を専門職として1966年以来当時の環境庁、通産省、農水省などと協力し、わが国の河川、海域、土壌汚染の現地調査をはじめ、現地の住民、漁業従事者、農業従事者の皆さんとの話し合いの場で行政側の代表者の一人として出席させられ、怒号飛び交う吊るし上げの修羅場を経験してきました。皆さんの為に調査、研究し、その成果を行政に反映させている私に対し彼らの不満のすべてが向けられ、恐ろしい経験をしたのを今でも忘れません。このような経験は数多くあり、その都度命の縮む思いをしてきましたが、反面、瀬戸内海の水銀汚染の安全宣言を愛媛県でしたとき、漁業従事者の方々から一転してあまりにも過大な感謝の意を表され慌てたことを思い出します。このような経験から、私はその当時これこそ職業奉仕であると自らを慰めていました。たしかに、汚染を解明し、その防止のための法律制定に協力するという行為は国民の皆さんへの奉仕に他ならないのですが、考えてみると私はこれらのために僅かとはいえ報酬を頂いていたことに気が付き、これは奉仕ではなくて職業として当然の行為ではなかったかと考え直したものです。

3. スリランカで涙・涙・涙…

一方、私の教室出身者でスリランカの政府関係者として活躍している人から招かれ、現地の学校、孤児院、貧しい子供たちの家などを見学させて頂いたことがあります。そのとき、一生懸命勉強している子供たちの中でお金がないのでお昼ご飯のかわりに隅でお茶を飲んでいる子供たち、家に電気がなく蝋燭の火で勉強している子供たちなどに接する機会を得

ました。貧しいけれど明るく、澄んだきれいな目で礼儀正しく振舞ってくれる姿を見て感激し、少しでもお役に立てたらと日本から奨学金をと申し出ました。友人と2人で日本スリランカ教育支援協会を設立し、それからその友人の亡くなるまで一般人を対象にお願いしてまわり、毎年200人の子供たちを援助するための資金を集めました。そして、毎年年末に現地に赴きプレゼントとともに奨学金を直接子供たちに手渡し、すぐに現地の友好団体管理下の銀行口座に貯金してもらいました。このように毎年現地に赴いていたのですが、丁度阪神淡路大震災の年末、現地に赴き、贈呈式を終えたとき、子供たちの代表が隣の寺院の大きな菩提樹の下にきてくれと申し出てきました。何かと思い行きますと、200人の子供たちが「毎年このように私たちに愛の手を差し伸べて下さる日本の人たちの中で今年大変な震災にあわれた方が多数おられることを聞きました。私たちで何かご恩返ししたいのですが大きなことは何もできません。そこで私たち全員で亡くなった方々、被災者の方々にお経をあげさせて下さい」という申し出がありました。そして、菩提樹の下で可愛い子供たちみんなでお経を唱えだしたのです。その声を耳にしたとき深い感動で涙をこらえることができませんでした。私はそのとき、奉仕で得られる唯一の報酬は感動であると気が付きました。この素晴らしい感動が次の奉仕の原動力になるのだと確信しました。

4. 職業奉仕、それは教育ではないのか

このように職業と奉仕という言葉の中で、奉仕の意味は判るとして、両者を繋いだとき職業という語の解釈をどうするのかという疑問が出てきました。厳密な意味で報酬を得ても奉仕といえるものがあるのか（あるという人もいます）など考えていると誰でもわかる職業奉仕はないのかと考えてみました。確かに、職業倫理の高揚、顧客のためになる真の価値ある商品の提供などいろいろ理屈はつけられるかもしれませんが、最も簡単に理解できる職業奉仕のひとつとして教育が挙げられると思いました。私は2度目のガバナーをさせて頂いたとき、ロータリアンは今まで経済的支援はしてきたのですが、知的支援はそれにくらべ非常に少ないのではないかと申し上げたと思います。それぞれの分野で最高の地位、知識、技術を備えたロータリアンがその特色を存分に発揮すべきであります。自らの職業を通じて得た専門知識—それは自ら得たものだけでなく人々から頂いたものを無償で提供するという知的奉仕こそ安心して容易に職業奉仕といえるのではないかと思っています。そこで最も大事な教育に焦点を合わせたとき、職業奉仕の場が広がってくるのではないでしょうか。地区職業奉仕委員会が推奨している出前授業などもわかりやすい奉仕ですし、例えば、皆さんの職場を青少年に開放し、夏休みでの工場見学、オフィス見学更にはアルバイトとして研修、実習などをしてもらっても良いのではないでしょうか。既に実行しておられるところもあるかもしれませんが、各クラブで地域の小、中、高校或いは教育委員会と話し合って実現できれば素晴らしいことではないかなど考えている昨今です。